

[研究論文]

中等教育家庭科における「内容の体系化」

－教科書索引語句を例として－

渡 瀬 典 子

岩手大学 教育学部

A Study of “Structuring of Educational Content” in Secondary Home Economics
—Based on Analysis of Home Economics Textbook Index—

Noriko WATASE, Faculty of Education, Iwate University

I. はじめに

小学校、中学校、高等学校における家庭科男女必修は、平成25年度に施行される高等学校の新学習指導要領によって、3回目のサイクルを迎える。家庭科が必修化されたこの20年間は、男女がともに学ぶ家庭科教育の枠組みの再考とともに、授業時間数の減少に苦慮する時代でもあった。このような家庭科をめぐる状況の中で、中教審答申（2008）の学習指導要領の改善の具体的事項として「学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る」ことや、「小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容を設定」¹⁾することが示された。

この答申を受け、小学校の学習指導要領では「中学校技術・家庭科の内容との系統性や連続性を重視し、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成」し、「小学校、中学校ともに同じ枠組みをもつ4つの内容で構成」することで、「小学校と中学校における内容の円滑な接続が可能となり、小学校での指導が中学校までの内容を見通したものとなり、中学校につながる基礎的、基本的な知識及び技能や生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が確実に定着すること」が明記された²⁾。また、中学校の技術・家庭科（家庭分野）の学習指導要領の中で「小学校家庭科の学習を基盤として発展させるものであり、その連続性と系統性を重視しながら指導することが大切」であること、「小学校家庭科の内容との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図る視点」が特徴づけられた。高等学校の「共通教科・家庭」における教科の目標には「小学校、中学校における学習の上に立ち、生活にかかわる経済的な視点や生

活文化の伝承と創造の視点を踏まえて、持続可能な社会の構築に向けて、科学的な根拠に基づいた実践力を身につけること」⁴⁾が重要だと述べられ、何れの学校段階でも他の学校段階とのつながりや積み上げ等の体系化を意識した表現になっている。

ところが、「内容の体系化」を具体的につめる段階で様々な困難に直面する。例えば、実習を伴う授業では学校の地理的・文化的状況、備品整備状況、教育課程の違い等によって、学習経験の差異が生じ「小学校や中学校で学んだ（はず）と期待した知識やスキルを生徒が身につけていない」と中学校、高等学校の家庭科教員から指摘されることがある。このことは、家庭科の授業時間減の状況下で学習を深めるための時間をどう捻出するかという問題と連動して話題にされることも多い。

そこで本研究は、今期の学習指導要領において重視されたカリキュラム構成の考え方である「小学校、中学校、高等学校における学習内容の体系化」に焦点を当て、体系化にかかわる現状の一端を示す資料を作成・分析し、さらに「内容の体系化」の課題を明らかにすることを目的とする。検討にあたり、家庭科の履修形態が大きく変化した男女必修後の教育課程を対象として当該期間に発行された教科書の索引に掲載された語句を検証する。教科書を対象としたのは全生徒が所持する学習材だからである。また、小学校の教科書には索引が掲載されていないため、中学校「技術・家庭（家庭分野）」と高等学校「家庭一般」「家庭総合」の教科書を用いる。「家庭総合」を対象としたのは「家庭一般」と同じ4単位の科目であり、基本的な構成が最も「家庭一般」に似ているからである。本研究では教科書中の索引について「当該教科の学習において重要な内容を含む語句や、生徒が授業内外で活用する機会がある語句」と捉える。

（審査終了 2013 年 2 月 25 日）

〒020-8550 盛岡市上田 3-18-33（勤務先）

Ⅱ. 分析対象資料および分析方法

1. 分析対象資料

家庭科男女必修後の学習指導要領改訂施行時期ごとに「1期：中学校1993-2001年，高等学校1994-2002年」，「2期：中学校2002-2011年，高等学校2003-2012年」，「3期：中学校2012年～，高等学校2013年～」とし，各時期に使用を目的として発行された中学校「技術・家庭（家庭分野）」，高等学校「家庭一般」，「家庭総合」の教科書索引を分析対象資料とする（表1）。中学校では1，2期に2社が，3期で3社が教科書を発行している。高等学校の「家庭一般/家庭総合」の教科書の方が中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教科書よりも多くの教科書会社で出版されているが，本研究では中学校の教科書を発行しているA～C社に限定した。中学校では11冊（索引語句数2,947），高等学校では17冊（索引語句数5,859），計8,806語の索引語句を分析する。

2. 分析方法

各学校段階の索引語句数，索引語句の内容領域の分布，1期から3期までの索引語句数の変化を数量的な側面から比較する。また，中・高の教科書索引の一致語句，頻出語句において類似点と相違点を抽出し，各学校段階の特徴とつながりについて内容的側面から検討する。

Ⅲ. 中・高家庭科における索引語句数と内容構成

1. 索引語句数の変化

索引語句数の平均数を見ると，中高とも改訂ごとに増加し，中学校では約80語ずつ各期で増えている。最も多くの索引語句を掲載しているのは中高ともにB社で，最も少なかったのは1，2期でC社（中学校），

表1 分析対象の教科書

時期区分	中学校				
	A社	B社	C社	計(冊)	索引語数
1期(1993-2001年)	-	2	2	4	775
2期(2002-2011年)	-	2	2	4	1108
3期(2012年～)	1	1	1	3	1064
計(冊)	1	5	5	11	2947

時期区分	高等学校				
	A社	B社	C社	計(冊)	索引語数
1期(1994-2002年)	3	4	1	8	2308
2期(2003-2012年)	3	2	1	6	2324
3期(2013年～)	1	1	1	3	1227
計(冊)	7	7	3	17	5859

A社（高等学校），3期ではA社（中学校），C社（高等学校）という結果だった。掲載語句数の差異が最も大きかったのは高等学校の1期で222語掲載語句数に違いがあった（表2）。

2. 索引語句の内容構成

次に，各学校段階における索引語句の内容構成をみる。小・中学校の学習指導要領では4つの内容構成をとっているが，本研究では13項目（食生活，衣生活，住生活，保育，消費生活，家族，高齢者／福祉，家事労働／職業労働，環境，情報，生活時間，HP／学校家庭クラブ活動，その他）で分類した。索引欄では，語句とその語句が書かれている頁番号が付されている。基本的には，当該ページの内容項目に則って分類し，複数ページが示されているときは，教科書本文の記述内容で判断した。また，ジェンダーに関する内

表2 各時期における掲載語句数

時期区分	中学校			
	計(冊)	最大(語)	最小(語)	平均(語)
1期(1993-2001年)	4	271【B社】	109【C社】	193.8
2期(2002-2011年)	4	311【B社】	233【C社】	277.0
3期(2012年～)	3	467【B社】	296【A社】	354.0
計(冊)	11			

時期区分	高等学校			
	計(冊)	最大(語)	最小(語)	平均(語)
1期(1994-2002年)	8	413【B社】	191【A社】	296.0
2期(2003-2012年)	6	448【B社】	360【A社】	387.3
3期(2013年～)	3	449【B社】	363【C社】	409.0
計(冊)	17			

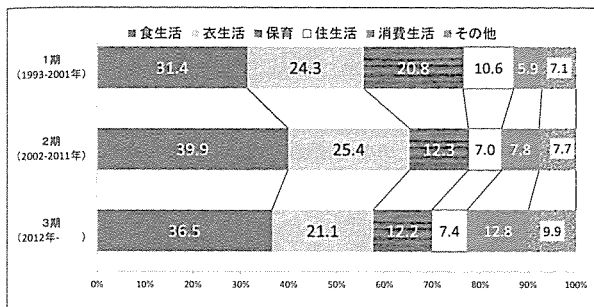


図1 索引の内容構成割合の変化 (中学校)

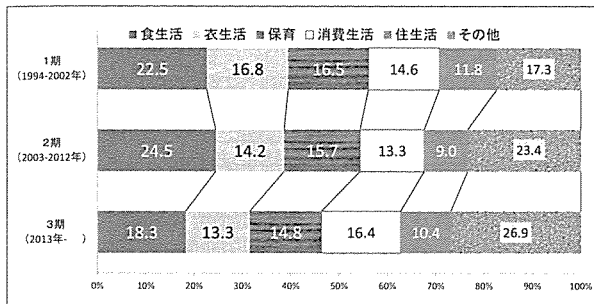


図2 索引の内容構成割合の変化 (高等学校)

容は「保育」の分類項目とした。

中学校では上位の5項目で9割以上を占め、高等学校でも同じ項目を合算すると全体の3/4以上になる。これら5項目以外を「その他」にまとめたのが図1, 2である。中学校ではとくに食生活と衣生活に関する語句が多く、2期ではこれら2項目だけで3/4に至る。また、保育分野の索引語句が減少した反面、消費生活分野の内容が増加している。

高等学校でも食生活に関する索引語句は多いが、中学校ほど各項目間の索引語句数の違いは現れていない。そこで、上位5項目の索引語句の内容に限定し、その特徴について見ていく。

Ⅳ. 中学校「技術・家庭（家庭分野）」および高等学校「家庭一般／総合」における索引語句の特徴

1. 食生活分野

索引語句の特徴を見るために、各期の分析対象教科書ごとに同一語句の出現数を内容構成ごとに分類した。各語句の処理方法として、例えば「栄養」「栄養素」「いも」「いも類」はそれぞれ別の言葉として扱い、表記の仕方（例：「旬」「しゅん」）は、同期の教科書でより多く用いられている表記の方を採った。

中高ともに索引語句数が最も多かった食生活分野について、各期の半数以上の教科書に掲載された索引語句をまとめたのが表3である。1～3期を通じて全教科書に記載されたのは、中学校で「加工食品、献立、食品添加物、生鮮食品」の4語、高等学校で「食品添

加物」の1語だった。索引語句の内容を見ると、中学校では「ルー」「ムニエル」などの料理の名称のほか、「ささがき」「乱切り」「火加減」といった調理に関する語が並ぶ。高等学校でも「米」「魚介類」等の食材名が中学校と同様、索引に多く挙げられたが、「アミノ酸価」「必須脂肪酸」「たんぱく質の補足効果」など、中学校では扱われない栄養に関わる用語が増える。中学校の学習指導要領では「小学校における五大栄養素に関する基礎的な既事項の学習を踏まえ、いろいろな栄養素が相互に関連をもちながら健康の保持増進や成長のために役立っていることを理解し、中学生にとって必要な栄養の特徴について考えることができるようにする」⁵⁾ことから「カルシウム」など日本人に不足しがちな物質名も索引に多く挙がっている。

食品の分類に関する語句について中学校は「6つの基礎食品群」のみ索引に登場するが、高等学校では「3色食品群（2期）」「6つの（基礎）食品群（1～3期）」「4つの食品群（1～3期）」が示され、小学校～高等学校の学習の想起や積み上げを意識したものと推察される。

高等学校「家庭総合」の「(4)生活の科学と環境」の内容の解説にあるように「中学校までに学習した衣食住に関する知識や技術の内容を踏まえて、高等学校では特に科学的な根拠に基づいて理解させ、実生活に活用できるようにするとともに、衣食住生活と社会とのかかわりについて考えさせる」⁶⁾という内容を受け、「ポストハーベスト農業」「地産地消」(2, 3期)、「フードマイレージ」「バーチャルウォーター」「トレーサビリティ」(3期)といった食品の安全、生産や供給にかかわる社会的な問題が最近の改訂で多く挙げられるようになってきた。

2. 衣生活、保育、消費生活、住生活分野

次に、索引語句の割合が多かった他の4分野の状況を中学校1期の掲載割合が多い順に見ていく。なお、これら4分野の索引語句を示した表4～6では表3とは異なり、全教科書で記載された語句を中心に抽出した表記とした。食生活分野の次に索引語句が多く掲載されているのは衣生活（中学校、高等学校1期）分野、保育（高等学校2, 3期）分野である。衣生活分野の索引語句は全体的に減少傾向にあり、分析対象教科書全ての索引に掲載された語は1期では皆無だった（表4）。中学校では1期で「かぎ針編み」「ししゅう」「棒針編み」等の「手芸」の技法が多く挙げたが、学習指導要領の改訂を受け、2期以降では、これらの語句が索引から消えた。また、表4では割愛されているが「ショートパンツ」「ハーフパンツ」「エプロン」「ちゃんちゃんこ」等の被服製作教材名が半数以上の教科書の索引項目にあるのは中学校段階の特徴である。

表3 中学校「技術・家庭」、高等学校「家庭一般/家庭総合」の教科書索引に半数以上掲載された語句（食生活）

1期	中学校「技術・家庭」（家庭分野）4冊	高等学校「家庭一般」8冊
	加工食品、健康、献立、塩、食品添加物、生鮮食品、調理、緑黄色野菜、ルー（4冊・9語）、6つの基礎食品群、食事のマナー（3冊・2語）、IU、Kcal、青菜のゆで方、油、いも類、栄養、栄養・栄養素、栄養所要量、栄養素の働き、エネルギー、海藻、カルシウム、カロチン、果物、グルテン、クレープ、紅茶、コールドチェーン、糊化、糊化と老化、穀類、小魚、小麦粉、米、混合だし、材料の選び方、材料の切り方、魚、砂糖、脂肪、ジャム、しょうゆ、食塩相当量、食事の取り方、食酢、食生活、食生活と健康、食品群別摂取量のめやす、食品成分表、食品の保存、食品の保存と加工、食品の流通、食物繊維、汁物の塩味、スパゲッティ、すまし汁、大豆とその加工品、たきこみ飯、だしの取り方、卵、炭水化物、たんぱく質、調味酢の種類、出盛り期（旬）、トマトピューレ、ドレッシング、肉、煮出し汁、日本型食生活、乳製品のいろいろ、ひき肉、ビタミン、ホームフリージング、ホワイトシチュー、マイクログラム、豆・豆製品、ミートソース、みそ、無機質、めんのゆで方、野菜、野菜サラダ、油脂（2冊・73語）	栄養所要量、食中毒、食品添加物、（8冊・3語）、アミノ酸価、栄養素、脂質、食物繊維、必須アミノ酸（7冊・5語）グルテン、コレステロール、脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン、生活活動強度、炭水化物、たんぱく質、不飽和脂肪酸、飽和脂肪酸、無機質（6冊・10語）、アミノ酸、郷土料理、穀類、食品群、食品群別摂取量、でんぷん、ビタミン、必須脂肪酸（5冊・8語）いも類、海藻類、加工食品、くだもの、米、砂糖、嗜好品、脂肪、食事作法、食肉、食文化、西洋料理、ダイエット、卵、中国料理、調理法、日本料理、不可欠アミノ酸、不可欠脂肪酸、野菜類（4冊・20語）
2期	中学校「技術・家庭」（家庭分野）4冊	高等学校「家庭総合」6冊
	栄養素、エネルギー、加工食品、カロチン、郷土料理、献立、食品群別摂取量の目安、賞味期限、食品添加物、食物繊維、食料自給率、生鮮食品、ムニエル（4冊・13語）、一汁三菜、会食、可食部、香辛料、脂質、しゅん、消費期限、食文化、だしの取り方、炭水化物、手打ちうどん、無機質（3冊・12語）、6つの基礎食品群、Kcal、赤身魚、油、アミノ酸、イチョウ切り、いわしのつみれ、栄養、栄養素の働き、塩分、海藻、概量、褐変、カルシウム、基礎代謝、牛乳、行事食、計量スプーン・計量カップの使い方、糊化、小口切り、小魚、小麦粉、混合だし、魚、魚のしゅん、魚の鮮度、魚の煮付け、ささがき、さつま汁、砂糖、さやいんげんのソテー、シチュー、しょうゆ、食塩、食塩相当量、食材のいろいろな切り方、食事の取り方、食事のマナー、食事の役割、食生活、食生活の課題、食生活の自立、食品成分表、食品の選択、食品の廃棄率、食品の表示、食品の輸入、白身魚、すまし汁、生活習慣病、せん切り、雑煮、調理、調理済み食品、調理の流れと手順、つみれ汁、出盛り期（旬）、糖分、トマトピューレ、肉、肉の部位、煮魚、日本型食生活、にんじんのバター煮、ひき肉、ビタミンA、品質保持期限、びんづめ、豚肉の生姜焼き、腐敗、ブラウンルー、ブラマンジェ、フルーツポンチ、ポイント、ポストハーベスト農業、ホワイトシチュー、ホワイトルー、マイクログラム、豆・豆製品、ミートソース、みじん切り、みそ、野菜、油脂、よう素、乱切り、ルー、冷凍食品（2冊・88語）	遺伝子組み換え食品、食中毒、食品添加物、食物繊維、生活習慣病、炭水化物、必須アミノ酸、必須脂肪酸、飽和脂肪酸、無機質（6冊・10語）、アミノ酸価、いも類、栄養機能食品、栄養素、献立、脂質、脂溶性ビタミン、食事摂取基準、食品群別摂取量のめやす、食料自給率、たんぱく質、たんぱく質の補足効果、特定保健用食品、ビタミン、不飽和脂肪酸（5冊・15語）、加工食品、魚介類、グルテン、穀類、脂肪酸、旬、消費期限、賞味期限、食品衛生法、食文化、水溶性ビタミン、生鮮食品、骨粗鬆症、ダイエット、多糖類、単糖類、調味料、でんぷん、糖質、日本型食生活、ポストハーベスト農業、緑黄色野菜、リン脂質（4冊・23語）、DHA、IPA、JAS法、アミロース、アミロペクチン、栄養価計算、栄養所要量、海藻類、カロチン、香辛料、米、コレステロール、砂糖、嗜好食品、脂肪、食事摂取基準、食生活指針、身体活動レベル、地産地消、特別用途食品、中食、二糖類、日本食品標準成分表、本膳料理、野菜類、油脂類（3冊・26語）
3期	中学校「技術・家庭」（家庭分野）3冊	高等学校「家庭総合」3冊
	JASマーク、赤身魚、一汁三菜、栄養素、エネルギー、加工食品、可食部、遺伝子組み換え食品、行事食、郷土料理、献立、脂質、旬、消費期限、賞味期限、食品成分表、食品添加物、食物繊維、食料自給率、白身魚、生活習慣病、生鮮食品、炭水化物、たんぱく質、ビタミン、フードマイレージ、無機質（3冊・27語）、6つの基礎食品群、Kcal、栄養、エコクッキング、概量、褐変、カルシウム、乾物、香辛料、個食・孤食、五大栄養素、しょうが焼き、食事摂取基準、食事の役割、食事バランスガイド、食習慣、食中毒、食品安全基本法、食品群別摂取量のめやす、食品の概量、地産地消、調理済み食品、出盛り期、特定保健用食品、トレーサビリティ、日本型食生活、廃棄率、火加減、腐敗、マイクログラム、ムニエル、有機JASマーク、緑黄色野菜（2冊・33語）	脂質、食品群別摂取量、食品添加物、食文化、食物繊維、食料自給率、たんぱく質、たんぱく質の補足効果、中性脂肪、糖質、特定保健用食品、ビタミン、必須アミノ酸、不飽和脂肪酸、飽和脂肪酸、栄養機能食品、無機質（3冊・17語）、JAS法、一汁二菜、遺伝子組み換え食品、栄養、栄養機能食品、栄養素、カロチン、行事食、郷土食、グルテン、糊化、個食、コレステロール、献立、脂肪酸、旬、脂溶性ビタミン、食育基本法、食事摂取基準、食品衛生法、水溶性ビタミン、生活習慣病、生鮮食品、単糖類、地産地消、調理、でんぷん、トレーサビリティ、中食、二糖類、日本食品標準成分表、バーチャルウォーター、ハサップ、必須脂肪酸、フードマイレージ、ポストハーベスト農業、緑黄色野菜（2冊・37語）

「小学校で学習した保健衛生上の着方と生活活動上の着方を踏まえて、衣服の社会生活上の機能を中心に理解し、時・場所・場合に応じた衣服の着用や個性を生かす着用の工夫ができるようにする」⁷⁾ という学習指導要領の内容によって、「TPO」「和服」等の被服の社会的機能や生活文化にかかわる着装の内容も、中

学校段階の学習内容の特徴といえる。

保育分野では、中学校段階で「運動機能の発達」「社会性の発達」など、幼児の発達・発育にかかわる語句が索引に多く挙がり、子どもの発達を促すものとして「おもちゃ」「遊び」、そして半数以上の教科書で「絵本」「おやつ」が掲載された。高等学校の1期で

表4 分析対象教科書全ての索引に掲載された語句（衣生活）

	中学校「技術・家庭」(家庭分野)	高等学校「家庭一般/家庭総合」
1期	該当教科書全て(4冊):なし 【参考】編み物,かぎ針編み,型紙,既製服,採寸,ししゅう,下衣,しぼり染め,繊維,染色,棒針編み(3冊・11語)	該当教科書全て(8冊):なし 【参考】界面活性剤,化学繊維,吸湿性,天然繊維,保温性(7冊・5語)
2期	TPO,化学繊維,型紙,既製服の表示,しみぬき,しるしつけ,組成表示,天然繊維,取り扱い絵表示,補正,ロックミシン(4冊・11語)	界面活性剤(6冊・1語)
3期	JIS,TPO,衣服の手入れ,化学繊維,型紙,しみ抜き,組成表示,天然繊維,ミシン,ロックミシン,和服(3冊・11語)	界面活性剤,化学繊維,乾式洗濯,湿式洗濯,天然繊維,平面構成,立体構成(3冊・7語)

表5 分析対象教科書全ての索引に掲載された語句（保育）

	中学校「技術・家庭」(家庭分野)	高等学校「家庭一般/家庭総合」
1期	運動機能の発達,おもちゃ,基本的生活習慣,ことばの発達,児童憲章,社会性の発達,情緒の発達(4冊・7語)	家族計画,基本的生活習慣,受精(8冊・3語)
2期	おもちゃ,社会性の発達,情緒の発達,自立(4冊・4語)	基本的生活習慣,子どもの権利条約,児童福祉法,集団保育,自立,胎児,予防接種(6冊・7語)
3期	遊び,おもちゃ,基本的生活習慣,児童憲章,社会的生活習慣,幼児期(3冊・6語)	愛着,家庭保育,児童虐待,児童憲章,児童福祉法,児童文化財,社会的生活習慣,集団保育,青年期,喃語,保育所,幼稚園,予防接種(3冊・13語)

表6 分析対象教科書全ての索引に掲載された語句（消費生活）

	中学校「技術・家庭」(家庭分野)	高等学校「家庭一般/家庭総合」
1期	該当教科書全て(4冊):なし 【参考】消費者の権利(3冊・1語)	家計,消費者信用(8冊・2語)
2期	悪質商法,消費生活センター,店舗販売,無店舗販売(4冊・4語)	意思決定,家計,可処分所得,クレジットカード,実支出,消費支出,消費者金融,消費者契約法,消費者信用,消費生活センター,販売信用,非消費支出(6冊・12語)
3期	後払い,アポイントメントセールス,キャッチセールス,契約,国民生活センター,サービス,消費者基本法,消費者契約法,消費者庁,消費生活センター,製造物責任法,即時払い,店舗販売,物資,訪問販売,前払い,無店舗販売(3冊・17語)	悪質商法,意思決定,家計,クレジットカード,契約,国民生活センター,実支出,実収入,消費者基本法,消費者金融,消費者契約法,消費者信用,消費者庁,消費者問題,消費生活センター,製造物責任法,販売信用(3冊・17語)

表7 分析対象教科書全ての索引に掲載された語句（住生活）

	中学校「技術・家庭」(家庭分野)	高等学校「家庭一般/家庭総合」
1期	該当教科書全て(4冊):なし 【参考】ごみ,住空間,生活行為,動線,平面図,平面表示記号(3冊・6語)	該当教科書全て(8冊):なし 【参考】集合住宅(7冊・1語)
2期	騒音(4冊・1語)	いす座,シックハウス症候群,床座(6冊・3語)
3期	騒音,生理・衛生の空間(3冊・2語)	住生活基本法,動線,平面図,まちづくり,ユニバーサルデザイン(3冊・5語)

は,全ての教科書に「家族計画」「受精」,半数以上の教科書で「人工妊娠中絶」「母子健康手帳」が挙げられ,「子どもを産む」ことにかかわる語句が多くを占めた。しかし2期以降は,「子どもの権利条約」「児童虐待」「児童憲章」等の子どもの福祉に関連する語句が索引語句の多くを占めるように変化した。

消費生活分野は,小中学校における内容Dのうち,経済に関する内容を抽出した。表6に見られるように,学習指導要領の改訂の度に各教科書共通に現れる索引語句数は増えている。中学校では「店舗販売」「無店舗販売」「訪問販売」等の販売方法に関する用語,「アポイントメントセールス」「キャッチセール

ス」等の「悪質商法」についての語句が多く挙がっていた。また、各学校段階での索引語句の特徴として中学校は「ジャドママーク」「玩具安全マーク」といった表示・マークの名称が、高等学校では「可処分所得」「実支出」「実収入」等の家庭経済関連の語が多く掲載されている点に違いがある。

表7は住生活分野の分析対象教科書全ての索引で掲載された語だが、他の分野に比べて著しく共通する語が少ない。住生活分野関連の索引語句が高等学校全ての期で掲載割合が他分野より少ないことが影響していると考えられるが、中学校（3期）では食、衣生活分野に次いで住生活分野は多くの語句が挙げられていたので、索引語の内容や用語の統一が取りにくいことが考えられる。中学校では集合住宅に関わる問題の一つである「騒音」という語、高等学校では個人・社会の住まいのデザインに関わる「動線」「まちづくり」「ユニバーサルデザイン」という語が多く挙がった。

次に、表3の食生活分野と同じ「半数以上の教科書で挙げられた語句」と対象を広げたうえで、1～3期通じて中学校の教科書に掲載された語句をまとめたのが表8である。1993年から20年近く掲載された共通語句は少なく、住生活分野は「換気」わずか1語で、しかも「換気」は小学校で学習する語でもある。

保育と消費生活分野は表5、6に示す状況と共通していたが、食生活、衣生活分野では食材名、料理名、被服製作教材名、技法名について各教科書や時期による違いがあり、表8にはこれらの語句がほとんど挙がらなかった。

3. 中高半数以上の教科書で挙げられた索引語句

次に、中学校「技術・家庭（家庭分野）」、高等学校「家庭一般／家庭総合」の分析対象教科書の半数以上の索引で挙げられた語を各期でまとめたのが表9であり、ここでは索引語句数が多い3分野（食生活、衣生活、保育）に限定して見ていく。表9で下線がつけられた語は、中高の教科書索引において「共に半数以上掲載」され「1～3期に共通」という条件のため、「食品添加物、食物繊維、無機質（3語）」「天然繊維（1語）」「基本的生活習慣、児童憲章、社会的生活習慣（3語）」と極めて少ないが、専門用語として定義が定まっている語句が多く見られる。また、食生活分野ではとくに生活と社会とのかかわりを生徒に考えさせる内容や「生活習慣病」「特定保健用食品」等の生涯にわたる食と健康につながる語が中高いずれの教科書にも登場している。

表8 中学校「技術・家庭」（家庭分野）の教科書索引に各期通じて半数以上掲載された語句

食生活	衣生活	保育	消費生活	住生活
Kcal, 栄養, エネルギー, 加工食品, 献立, 旬, 食品添加物, 食物繊維, 生鮮食品, 炭水化物, 無機質, 6つの基礎食品群, 食品群別摂取量のめやす, 出盛り期, 日本型食生活, マイクログラム (16語)	JIS, 編物, 型紙, 既製服, しるしつけ, 天然繊維, 綿 (7語)	おもちゃ, 基本的生活習慣, 児童憲章, 社会的生活習慣, 社会性の発達, 情緒の発達 (6語)	悪質商法, クーリングオフ制度, 国民生活センター, 通信販売, 店舗販売, 訪問販売 (6語)	換気 (1語)

表9 中学校「技術・家庭」、高等学校「家庭一般／家庭総合」の教科書索引 共に半数以上掲載された語句

	食生活	衣生活	保育
1期	いも類, 加工食品, グルテン, 穀類, 米, 砂糖, 脂肪, <u>食品添加物</u> , 果物, <u>食物繊維</u> , 卵, 炭水化物, たんぱく質, ビタミン, <u>無機質</u> (15語)	織物, 既製服, 採寸, 繊維, 洗剤, <u>天然繊維</u> (6語)	遊び, <u>基本的生活習慣</u> , <u>児童憲章</u> , 社会的生活習慣, 保育所, 幼稚園 (6語)
2期	栄養素, 加工食品, カロテン, 香辛料, 献立, 砂糖, 脂質, しゅん, 消費期限, 賞味期限, 食品成分表, 食品群別摂取量の目安, <u>食品添加物</u> , <u>食物繊維</u> , 食文化, 食料自給率, 生鮮食品, 炭水化物, 日本型食生活, ポストハーベスト農業, <u>無機質</u> (21語)	JIS, TPO, 編み物, 織物, 化学繊維, 合成繊維, サイズ表示, しみぬき, しるしつけ, 繊維, 洗剤, 洗濯, <u>天然繊維</u> , 取り扱い表示, 品質表示 (15語)	<u>基本的生活習慣</u> , 子どもの権利条約, <u>児童憲章</u> , 児童の権利に関する条約, <u>社会的生活習慣</u> , 自立, 保育所, 幼稚園 (8語)
3期	遺伝子組み換え食品, 栄養, 栄養素, 行事食, 献立, 脂質, 旬, 食事摂取基準, <u>食品添加物</u> , <u>食物繊維</u> , 食料自給率, 生活習慣病, 生鮮食品, たんぱく質, 地産地消, 特定保健用食品, トレーサビリティ, ビタミン, フードマイレージ, <u>無機質</u> , 緑黄色野菜 (21語)	JIS, TPO, 編物, 化学繊維, 採寸, 洗たく, <u>天然繊維</u> , 取り扱い表示, 和服 (9語)	<u>基本的生活習慣</u> , <u>児童憲章</u> , 児童福祉法, <u>社会的生活習慣</u> , 児童の権利条約 (5語)

注) 表中の下線部は各期全てに挙げられた語

V.まとめと今後の課題

家庭科教育が男女必修の普通教育として施行されるようになってから20年が経とうとしている。この枠組みの中で、家庭科が教科としてどのような力を小・中・高を通じて児童・生徒に身につけさせるか、様々な実践や研究から検討されてきた。また、今期の学習指導要領では小中(高)の「(目標と)内容の体系化」が改訂の特徴の一つになっている。そこで、本研究では、この20年間に発行された「技術・家庭科(家庭分野)」、「家庭一般/家庭総合」の教科書索引8,806語を分析対象として、教科書レベルでの「内容の体系化」に関わる一資料の作成を目指した。その結果、以下の事柄が明らかとなった。

- ①中高ともに食生活分野に関する索引語句が多く、中学校では3割以上である。高等学校では改訂に伴い分野間での索引語句数の差が縮小してきた。
- ②住生活分野では中高で共通する索引語句が他分野と比べて少ない。
- ③中高の家庭科教科書で共通して多く掲載された索引語句は定義がある程度定まった用語が多い。また、学習指導において様々な視点や方法で展開できる語句(例:「食品添加物」「基本的生活習慣」)が見られる。
- ④中学校では、食、衣生活分野で「料理名」、「食材名」、「被服製作教材名」、「技法」の名称が多く、高等学校では食生活分野で中学校では扱わない栄養に関する用語が多くなる。

中高の家庭科教科書索引語句から「体系化」に関わって2つの特徴が現れた。1つは④のように、学校段階の違い(中学校、高等学校)で索引語句の性格が異なる場合である。これは学習対象の「広がり」を示すものといえる。次に、本項③で言及した中高で教科書索引語句が共通する場合である。これは、対象語句が学校段階の違いを超えて何度でも扱われるべき「深まり」をねらった重要な学習内容とも考えられる。よって語句の意味を習得することのみに囚われず、語句を手がかりに学びをつなぎ、深め、そして生活に活

かせる“生きた”知識につなげるダイナミックな授業展開が期待される。例えば、小・中・高いずれの学校段階においても課題に設定されやすいテーマ(例「健康的な食生活」、「ごみの減量化」、「安全なまちづくり」)を扱う際に、当該学校段階でどこまでその内容を扱うか、問題にされることがある。しかし、学習者側は課題追求の際に「どこまで」ということよりも、解決のために知っていることや調べたこと、考えたことを皆と共有したいと思うだろう。よって、学習指導をする側は“問題解決の手立てを増やすために当該学校段階では確実にこの内容を身につける”という視点に立って学習内容を構想し、学習方法を工夫することで「体系化」の意義が生まれるといえる。

本研究では、「内容の体系化」を考察するにあたり、教科書の索引項目を手掛かりとした中高家庭科の内容のつながり、各学校段階の学習内容の特徴について検討した。その結果、中高ともに半数以上の教科書に挙げられる索引語句の存在が確かめられた。しかし、実際にこれらの対象語句がどのように授業で用いられ、展開されるかについては未検証である。よって、同じ語句であっても各学校段階による学習過程の違いの有無を具体的な授業場面で検証する必要がある。なお、本研究は平成24年度科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号:23500871)の助成を受けたものである。

[引用・参考文献]

- 1) 中央教育審議会.幼稚園,小学校,中学校,高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申).2008
- 2) 文部科学省.小学校学習指導要領解説 家庭編,東洋館出版社,2008,p.5,14
- 3) 文部科学省.中学校学習指導要領解説 技術・家庭編,教育図書,2008,p.38,41
- 4) 文部科学省.高等学校学習指導要領解説 家庭編,開隆堂,2010,p.8
- 5) 前掲書3),p.50
- 6) 前掲書4),p.29
- 7) 前掲書3),p.59